



宝塚市立良元小学校 学校通信 7月号

良元通信

令和7年(2025)6月30日号

「家庭の顔」と「学校の顔」

～それぞれの場所で育つ、子どもたちの心の成長～

校庭の緑も濃くなり、夏の訪れを感じる季節となりました。日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

いよいよ！学期の締めくくりを迎え、今月は「個人懇談」(7月8日～14日のうち5日間)を予定しております。また、通知表「あゆみ」は終業式の前日(7月16日)にお渡しいたします。ご多忙の折とは存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

日頃の懇談等で保護者の皆様とお話ししていると、「家では好き嫌いがあるのに給食は完食している」など、子どもの「家庭」と「学校」での姿の違いに驚く声を聞くことがあります。一方で、最近「学校や放課後の遊び場で子どもたちが乱暴な言葉を使っている」というご指摘を受けることもあります。子どもたちの中には、ご家庭では使わないような言葉を、外の集団関係の中で使ってしまう場合もあります。不適切な言葉遣いに対しては、学校としても決して容認せず、その都度継続して指導を行っています。

このように、子どもが二つの顔を持つのは自然な成長過程でもあります。家庭はありのままの自分を受け入れてもらえる「安全基地」であり、心からリラックスできる場所です。一方で学校は、多様な仲間と関わる「社会の縮図」です。授業の緊張感や集団のルール、友人関係など、子どもたちにとっては常に挑戦の連続です。

周りに刺激されて苦手なことに挑戦する自立の姿もあれば、「強く見せたい」「葛藤をうまく表現できない」という思いから、不器用な表現や乱暴な言葉を使ってしまうこともあります。だからこそ大人は頭ごなしに叱るのではなく、粘り強く境界線を示していく必要があります。外でエネルギーを使っている分、家庭で心を休めることも同様に大切です。

まもなく始まる夏休みや個人懇談は、お子様の「二つの場所での姿」を認め、成長を促す絶好の機会です。「あゆみ」の数字だけでなく、学校という刺激的な環境でどれだけ葛藤し一步を踏み出したかという「目に見えない成長」にぜひ目を向けてください。

個人懇談の場では学校での様子をお伝えするとともに、ご家庭での姿もお聞かせいただき、ともに温かく支えていければ幸いです。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

校長 南 理香